

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「学校は、自主性・創造性のある生徒を育てようとしている」「学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている」という項目において、「よくあてはまる」「ややあてはまる」という評価の合計はそれぞれ80.9%、76.4%であることから、概ね本校の学習指導の方向性について保護者の方々に理解されていると思われる。しかし、具体的取り組みである「学校は、子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている」について、生徒が91.0%である一方、保護者は60.7%と低く、また、31.5%の保護者が「わからない」と回答している。その一方、「学校は保護者が授業を参観する機会等をよく設けている」について、83.1%と高い値であることから、授業等に参加する機会は多くあるが、その様子や内容について理解されるに至っていないことを示している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に対応した指導 1年生：学習習慣の定着と基礎学力の充実 2年生：学力の定着と主体性及び論理的思考力の育成 3年生：実践的学力の充実と生きる力の醸成 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任及び教科担任との連携強化（教育相談との連携） 授業内容の向上とその方策の研究（アクティブラーニング等企画部と連携） 高大接続改革に関わる新教育課程の研究及び立案 	
6 目標達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定 あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> 学習アンケート・学習時間調査の結果を基にした各分掌・教科での分析 定期考査や外部模試等の結果分析を基にした指導内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 個別面談指導による生徒把握 (2) 定期考査や外部模試等、調査 	
8 取組み状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 個別懇談期間以外にも放課後、昼休みを利用したきめ細かな面談を実施し、個別対応を強化する。 校外模試の分析結果を職員会議で報告し、職員間で情報を共有し、各教科で対策を検討する。 45分の授業を有効に活用するため、授業改善に努め学習時間をつくらない等、職員の意識統一を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習習慣の定着 ②学習意欲・向上心の喚起 ③生徒学力の把握 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<p>学習指導及び学校独自項目Aの評価について、保護者、生徒とも全項目において昨年度より高評価をいただいたが、まだ多くの項目で1/3強が「わからない」と回答し、特に「わからない」という回答が減少する中、「地域の人々や中学校に学校の教育方針や教育活動の現状をよく周知している」については昨年度より増加し、40.4%であった。この結果は、学校関係者評価等の反省を元に学校案内や体験入学等に工夫・改善を行ったが、まだまだ不十分であることを示している。今後は、本校教育活動の特色である総合的な学習の時間の取組やSSHをさらにPRすると同時に、HPの充実を確実に進行が必要であると強く感じた。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習活動を高め、個々の能力を向上させるため、授業研究週間を充実させ、職員の授業改善を図る。 行事ごとにHPで報告すると同時に、学校紹介パンフレット等を作成し、広報活動に利用する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年 2月9日

【意見・要望・評価等】

・生徒も先生もよく頑張っていると思う。一方、成績不振の生徒も何とかできるようになるよう支援をしてもらいたい。

- 生徒も保護者も学習成績（点数）が最も気になるようだが、生徒自身が自分の長所に気付いたり、仲間同士それぞれの良さを認め合ったりして、自己肯定感を高められるような関わりを大切にしてもらいたい。
- 45分授業となり10年以上経過している。45分授業を実施する学校は増えていない。利点はあると思うが、一度見直しをしてもよいのではないか。授業（ディベート）を参観しあと5分あればと思った。
- HPは見る人が限られ、地域での保護者や生徒の関わりが薄くなっているため地域の人に理解されることは難しい。地域の人たちが現在の恵那高について具体的に知る機会はなかなかないと思われる。意図的な広報活動が必要である。
- 生徒の授業に対する評価が高い。学校の教育活動について保護者に（家庭に）なかなか伝わらないのは、家庭での対話の減少という問題もあるかもしれない。